

[WCC 釜山総会]

"WEA・国際ローザンヌなどとのネットワークを 構築しなければならない"

エキュメニカル・カンヴァンション報告

「国民日報」

2013.11.07 22:02

<http://p.tl/tNqA>

WCC 釜山総会内では様々なテーマに分かれて継続的な対話を積み重ねる「エキュメニカル・カンヴァンション」が開催された。参加者たちは、この対話によって、WCC と世界福音同盟（WEA）や国際ローザンヌ福音運動（ローザンヌ運動）などの間でネットワークを構築し、そのネットワークにペンテコステ系の諸教団も積極的に参加できるような配慮をしなければならない、という要求を提出した。

21 のテーマで行われた「エキュメニカル・カンヴァンション」は、全世界の教会が直面している問題を議論するために、総会代議員だけでなく一般の参加者にも参加を呼びかけて、毎日一時間半ずつ 4 日間行われたプログラムである。エキュメニカルなコンセンサスがここに醸成されるため、今後 WCC の方針に重要な影響を及ぼすことになる。WCC プログラム委員会がエキュメニカル・カンヴァンションの報告書を作成し、本会議がこれを採択することになれば、WCC 中央委員会がフォローアッププログラムを推進する。

11 月 7 日に WCC プログラム委員会が作成した報告書によると、21 のテーブルトークが「教会一致と教会の役割」「正義・平和」「宣教」「教育・霊性」「女性」「奉仕」の 6 つの分野で行われた。

「教会の一致」分野への参加者は、WCC に加盟している各教会が移住・紛争・経済不安・気候変動の問題に対応して正義と平和を追求し、創造の秩序維持に注力するために、よりオープンで柔軟性の高いネットワークが必要だとする要請をまとめた。そして、そのために、WCC が WEA、グローバルクリスチャンフォーラム、国際ローザンヌ、ペンテコステ派教会、カリスマ主義教会、独立教会などに対して開放的な姿勢を示し、積極的な協力関係を構築して神学的対話を展開すべきだとした。

「正義・平和」の分野への参加者は、神学校と聖職者たちによって、世界の教会が直面している問題に対して排他主義的な姿勢を越える代案を提示することができるはずだ、と述べた。特に、気候変動・生態系に関する正義・暴力と武器・貪欲な国際金融・人身売買・

移住労働者と無国籍者への人権蹂躪、迫害される教会、等の問題について、道徳的な分別を弁えることができるように人々を訓練すべきだと強調した。朝鮮半島問題では停戦協定を平和協定に変え、韓半島周辺の強大国が統一のために貢献しなければならないと促し、南北の教会の出会い、離散家族の再会を求めた。中東問題を解決するために、極端な立場を避けつつ反イスラム的偏見を拒否すること、そして非暴力抵抗運動を展開することが大切であると結論づけた。そして参加者たちは、WCC 第 11 回総会を中東地域で開催することを要請した。

「宣教」を主題とした議論においては、「伝道」と「平和・正義」の関係を議論し、新たな弟子像を確立することを求めた。

「教育・霊性」を主題とした議論においては、健全なエキュメニカル指導者を養成するために、男女の若者すべてに高水準の神学教育を施し、学習困難な地域により多くの奨学金を支給して支援すべきだと結論付けた。

「女性」を主題とした議論においては、女性のリーダーシップ能力育成に注力する一方、性的不平等故に悪化しているエイズの問題や性暴力等、様々な性の不平等の問題を丁寧取り扱わなければならないことを強調した。

「奉仕」を主題とした議論においては、より緊密なエキュメニカル・ネットワークを構築する必要性が提起された。

朴成国 WCC 総会支援局長は、「これらテーブルトークの内容は、WCC が今後の方針を決定し、事業を進める上で重要な基礎資料となる」とし「今回の総会で、中東と定義・平和の問題が集中的に浮き彫りにされた。今後、WCC 事業がそちらへと集中することとなるだろう」と説明した。

釜山=ベクサンヒョン記者 100sh@kmib.co.kr